

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月12日
【四半期会計期間】	第29期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	ソフトバンク・テクノロジー株式会社
【英訳名】	SoftBank Technology Corp.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 CEO 阿多 親市
【本店の所在の場所】	東京都新宿区新宿六丁目27番30号
【電話番号】	03(6892)3063
【事務連絡者氏名】	取締役 CFO 管理統括 長田 隆明
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区新宿六丁目27番30号
【電話番号】	03(6892)3063
【事務連絡者氏名】	取締役 CFO 管理統括 長田 隆明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期 第1四半期連結 累計期間	第29期 第1四半期連結 累計期間	第28期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	9,201,163	10,671,142	45,163,237
経常利益 (千円)	185,113	234,183	2,230,163
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	78,652	133,200	1,405,191
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	32,620	108,979	1,362,250
純資産額 (千円)	10,822,236	11,248,990	11,726,397
総資産額 (千円)	22,364,516	22,411,813	25,974,192
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	8.11	13.80	144.74
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	8.03	13.54	143.47
自己資本比率 (%)	44.8	48.5	43.1

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高10,671,142千円（前年同期比+16.0%）、営業利益238,643千円（前年同期比+32.6%）、経常利益234,183千円（前年同期比+26.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益133,200千円（前年同期比+69.4%）となりました。

主な増減要因は、以下のとおりです。

(a) 売上高

売上高は10,671,142千円となり、前年同期と比較して1,469,979千円（16.0%）増加しました。当社単体において大型の公共案件が順調に進行したこと、プラットフォームソリューション事業における機器販売の受注が増加したこと、さらにシマンテックストア事業が伸長したことにより増収となりました。

(b) 限界利益（注）

限界利益は2,679,188千円となり、前年同期と比較して201,139千円（8.1%）増加しました。プラットフォームソリューション事業の機器販売が増加したことにより、売上高は増加したものの限界利益率は低下しました。

（注）限界利益 = 売上高 - 変動費（売上高とともに変化する商品仕入高や外注費、物流費等）

(c) 固定費

固定費は2,440,545千円となり、前年同期と比較して142,515千円（6.2%）増加しました。これは主に、当社単体における従業員の増員によるものです。

(d) 営業利益

上記の結果、営業利益は238,643千円となり、前年同期と比較して58,623千円（32.6%）増加しました。採用の強化により人件費は増加したものの、売上高の伸長とその他固定費の抑制により、営業利益率は前年同期と比較して0.2ポイント改善し2.2%となりました。

(e) EBITDA（注）

EBITDAは466,927千円となり、前年同期と比較して49,900千円（12.0%）増加しました。

（注）EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + のれん償却費

(f) 営業外損益

為替差損が増加した結果、営業外損益は4,460千円の損失となり、前年同期と比較して9,553千円（前年同期は5,093千円の利益）損失が増加しました。

(g) 経常利益

上記(d)～(f)の結果、経常利益は234,183千円となり、前年同期と比較して49,069千円（26.5%）増加しました。

(h) 特別損益

特別損益は発生しておらず、前年同期と比較して4,029千円（前年同期は4,029千円の利益）利益が減少しました。

(i) 税金等調整前四半期純利益

上記(g)～(h)の結果、税金等調整前四半期純利益は234,183千円となり、前年同期と比較して45,040千円(23.8%)増加しました。

(j) 法人税等合計

法人税等合計は86,320千円となり、前年同期と比較して3,684千円(4.1%)減少しました。

(k) 親会社株主に帰属する四半期純利益

上記(i)～(j)の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は133,200千円となり、前年同期と比較して54,548千円(69.4%)増加しました。

当社の報告セグメントは、「ICTサービス事業」の単一セグメントとしており、「ICTサービス事業」を構成する主要なサービスの業績については、次のとおりであります。なお、一部サービス区分について、当第1四半期より名称を変更しております。

また、一部のサービスに関するサービス区分について見直しを行ったため、各サービス区分の前年同期の売上高及び限界利益の金額は現在の計上方法に則して算出しております。

セグメント	サービス区分	主なサービスの内容	主な事業会社の名称	
報告 セグメント	ICT サービス 事業	デジタル マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・ECサイト運営代行サービス、フロントセットの開発・販売及びウェブフロントサービスの提供 ・ウェブサイトの構築、アクセスログ解析ツール、データ解析及びコンサルティングサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク・テクノロジー(株) ・フォントワークス(株) ・(株)環
		プラットフォーム ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ・IT基盤の構築と運用保守サービス、リナックスソリューションの提供 ・脆弱性診断テストや標的型攻撃対策サービス、電子証明書を利用した認証や暗号化サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク・テクノロジー(株) ・サイバートラスト(株) ・ミラクル・リナックス(株)
		クラウドシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの開発と運用保守サービス、タブレット端末やスマートフォン、ロボット用アプリケーションの開発 ・情報システムのクラウド移行支援、親和性の高い自社クラウドサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク・テクノロジー(株) ・M-SOLUTIONS(株) ・アソラテック(株)

デジタルマーケティング

(千円)

	前年同期	当第1四半期	増減	増減率
売上高	5,254,991	5,496,256	241,264	4.6%
限界利益	869,564	793,390	76,173	8.8%

< 主なサービス内容 >

・ECサービス

シマンテックストアの運営代行や、フォントセットの開発・販売、ウェブフォント及びウェブフォントプラットフォームサービスを提供しています。

・データアナリティクス

ウェブサイトのコンテンツ管理システムの構築とアクセスログ解析、データを蓄積・加工・分析するBIツール、及びそれらに付随するコンサルティングサービスを提供しています。加えて、社内ログの分析サービスや広告費の効果測定サービスなども提供しています。

< 当事業の業績概況 >

当事業の売上高は5,496,256千円となり、前年同期と比較して241,264千円(4.6%)増加しました。これは、シマンテックストアの売上高が好調に推移したことによるものです。

限界利益は793,390千円となり、前年同期と比較して76,173千円(8.8%)減少しました。シマンテックストアの売上高は伸長したものの、前年同期に大型案件の受注があった子会社フォントワークス(株)の減収に伴い減益となりました。

プラットフォームソリューション

(千円)

	前年同期	当第1四半期	増減	増減率
売上高	2,255,533	2,656,636	401,103	17.8%
限界利益	890,662	1,012,248	121,585	13.7%

< 主なサービス内容 >

・ITインフラソリューション

サーバーやネットワーク機器の販売、IT基盤の構築及び運用保守サービスの提供、リナックスOSやデジタルサイネージシステム、統合監視ツール及びサポートサービスを提供しています。

・セキュリティソリューション

セキュリティ運用監視や標的型攻撃対策、各種診断サービス、その他セキュリティ商材を組み合わせた包括的なソリューション、電子証明書を利用した通信の暗号化や認証サービス等を提供しています。

< 当事業の業績概況 >

当事業の売上高は2,656,636千円となり、前年同期と比較して401,103千円(17.8%)増加しました。これは主にITインフラソリューションにおける大型機器販売の受注、及びFireEyeやImpervaなどセキュリティ関連サービスの受注が増加したことによるものです。

限界利益は1,012,248千円となり、前年同期と比較して121,585千円(13.7%)増加しました。ITインフラソリューションとセキュリティ関連サービスの売上が伸長したことに伴い、増益となりました。また、自社開発のコンテンツやサービス提供を行う子会社サイバートラスト(株)とミラクル・リナックス(株)も増益に寄与しております。

クラウドシステム

(千円)

	前年同期	当第1四半期	増減	増減率
売上高	1,690,638	2,518,249	827,611	49.0%
限界利益	717,822	873,550	155,727	21.7%

< 主なサービス内容 >

・システムインテグレーション

情報システムの開発及びそれに付随する運用保守サービスを提供しています。また、スマートフォンやタブレット端末、ロボット向けのアプリケーション及び開発支援ツールの開発・販売を行っています。

・クラウドソリューション

顧客企業のコミュニケーションシステムのクラウド移行支援や、移行後の運用監視サービス、ユーザーの利便性と企業のセキュリティを両立する自社サービスなどを提供しています。

< 当事業の業績概況 >

当事業の売上高は2,518,249千円となり、前年同期と比較して827,611千円(49.0%)増加しました。これは主に、公共案件を中心とした大型案件が順調に推移したこと、及びソフトバンクグループ向けのシステム開発、運用・保守案件が増加したことによるものです。

限界利益は873,550千円となり、前年同期と比較して155,727千円(21.7%)増加しました。これは、クラウドソリューションの売上高が伸長したことによるものです。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、5,993千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,560,800
計	42,560,800

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,711,900	10,742,900	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式、 単元株式数 100株
計	10,711,900	10,742,900		

(注)「提出日現在発行数」には、平成28年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	15,000	10,711,900	7,910	672,366	7,910	750,015

(注)1 新株予約権の行使による増加であります。

2 平成28年7月1日から平成28年7月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が31,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ18,280千円増加しております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,050,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,643,200	96,432	
単元未満株式	普通株式 3,300		
発行済株式総数	10,696,900		
総株主の議決権		96,432	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式90株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
ソフトバンク・テクノロジー(株)	東京都新宿区新宿六丁目27番30号	1,050,400		1,050,400	9.82
計		1,050,400		1,050,400	9.82

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,721,789	7,282,920
受取手形及び売掛金	11,279,578	5,749,147
商品	221,142	99,026
仕掛品	260,724	543,180
繰延税金資産	377,998	317,681
その他	976,404	1,298,672
貸倒引当金	8,206	5,849
流動資産合計	18,829,431	15,284,778
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	515,562	496,560
工具、器具及び備品(純額)	776,185	765,626
建設仮勘定	9,684	14,489
有形固定資産合計	1,301,431	1,276,676
無形固定資産		
のれん	1,201,211	1,159,857
ソフトウェア	965,181	924,235
ソフトウェア仮勘定	89,180	199,361
顧客関連資産	590,745	574,779
その他	281,943	274,913
無形固定資産合計	3,128,262	3,133,147
投資その他の資産		
投資有価証券	912,669	875,457
繰延税金資産	243,755	263,702
その他	1,616,230	1,635,636
貸倒引当金	57,587	57,585
投資その他の資産合計	2,715,067	2,717,211
固定資産合計	7,144,761	7,127,035
資産合計	25,974,192	22,411,813

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,293,231	4,795,714
1年内返済予定の長期借入金	2,324,650	2,320,400
リース債務	71,413	71,783
未払金	701,044	755,360
未払法人税等	590,404	46,514
前受金	1,356,680	1,789,228
賞与引当金	608,652	308,607
役員賞与引当金	-	18,416
受注損失引当金	2,420	9,522
その他	810,105	883,162
流動負債合計	11,758,602	8,998,709
固定負債		
社債	100,000	-
長期借入金	2,638,800	2,558,700
リース債務	434,093	416,008
繰延税金負債	118,567	111,747
長期前受金	670,407	720,806
退職給付に係る負債	74,220	77,914
資産除去債務	257,714	258,471
その他	195,388	20,464
固定負債合計	2,489,192	2,164,113
負債合計	14,247,795	11,162,823
純資産の部		
株主資本		
資本金	664,456	672,366
資本剰余金	714,919	582,694
利益剰余金	10,629,573	10,473,380
自己株式	872,008	872,151
株主資本合計	11,136,939	10,856,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,778	9,993
為替換算調整勘定	3,987	2,890
その他の包括利益累計額合計	51,766	12,883
新株予約権	102,010	99,822
非支配株主持分	435,680	279,994
純資産合計	11,726,397	11,248,990
負債純資産合計	25,974,192	22,411,813

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	9,201,163	10,671,142
売上原価	7,752,771	9,086,471
売上総利益	1,448,392	1,584,670
販売費及び一般管理費	1,268,372	1,346,027
営業利益	180,019	238,643
営業外収益		
受取利息	30	14
持分法による投資利益	3,748	5,959
為替差益	3,068	-
雑収入	4,854	999
営業外収益合計	11,701	6,972
営業外費用		
支払利息	6,606	5,194
為替差損	-	5,885
雑損失	0	352
営業外費用合計	6,607	11,433
経常利益	185,113	234,183
特別利益		
退職給付制度改定益	4,029	-
特別利益合計	4,029	-
税金等調整前四半期純利益	189,142	234,183
法人税、住民税及び事業税	83,335	37,263
法人税等調整額	6,669	49,056
法人税等合計	90,004	86,320
四半期純利益	99,138	147,862
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	78,652	133,200
非支配株主に帰属する四半期純利益	20,485	14,662
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	64,997	37,785
為替換算調整勘定	512	1,097
持分法適用会社に対する持分相当額	1,006	-
その他の包括利益合計	66,517	38,883
四半期包括利益	32,620	108,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,229	94,317
非支配株主に係る四半期包括利益	21,391	14,662

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 当社は、ソフトバンクグループ㈱と極度貸付契約書を締結しております。当該契約に基づく貸出未実行残高は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
貸付限度額	6,000,000千円	6,000,000千円
当期末貸付残高	-	-
貸付未実行残高(差引額)	6,000,000千円	6,000,000千円

なお、上記極度貸付約定書においては、個別に審査し貸付額を決定するため、必ずしも全額が貸付実行されるものではありません。

2. 財務制限条項

前連結会計年度(平成28年3月31日)

借入金のうち、㈱みずほ銀行との金銭消費貸借契約(借入金残高959,200千円)には財務制限条項が付されており、下記条項に抵触した場合には、借入先からの請求により、一括返済することになっております。

- (1) 平成26年3月期の決算期以降、各年度の決算期における借主の連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持すること。
- (2) 平成26年3月期の決算期以降、各年度の決算期における借主の連結損益計算書に示される営業損益・親会社株主に帰属する当期純損益が2期連続して損失とならないこと。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

借入金のうち、㈱みずほ銀行との金銭消費貸借契約(借入金残高879,100千円)には財務制限条項が付されており、下記条項に抵触した場合には、借入先からの請求により、一括返済することになっております。

- (1) 平成26年3月期の決算期以降、各年度の決算期における借主の連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持すること。
- (2) 平成26年3月期の決算期以降、各年度の決算期における借主の連結損益計算書に示される営業損益・親会社株主に帰属する当期純損益が2期連続して損失とならないこと。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	195,995千円	187,318千円
のれんの償却額	41,353千円	41,353千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月17日 定時株主総会	普通株式	193,964	20.00	平成27年3月31日	平成27年6月18日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月20日 定時株主総会	普通株式	289,392	30.00	平成28年3月31日	平成28年6月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ICTサービス事業の単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	8.11円	13.80円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	78,652	133,200
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(千円)	78,652	133,200
普通株式の期中平均株式数(株)	9,698,210	9,655,531
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 金額	8.03円	13.54円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	94,945	183,257
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

ソフトバンク・テクノロジー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 望月 明美 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 朽木 利宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているソフトバンク・テクノロジー株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ソフトバンク・テクノロジー株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。